

平成19年12月第4回定例会（まちづくり懇談会について）

今年度のまちづくり懇談会につきましては、11月15日から28日までの間に7カ所、総数66名の参加者によって行われました。

今回は、町長の行政報告、保険等の個別課題の説明、そして真狩村、留寿都村、喜茂別町の3町村の合併の動きについて、議会町村合併特別委委員会の皆様をはじめ、議員の皆様にも参加をいただき1カ所に1時間半から2時間半をかけ、貴重なご意見をいただいたところであります。

ここにその内容の主なものをご報告致します。

まず、3町村の合併につきましては、否定的な意見は少なく、以前の5カ町村合併の議論から継続した課題ということもあり、多くの方に町村合併が認識されているであろうことが窺われました。ご意見の中には、町長としてのリーダーシップを発揮するよう指摘を受けたところでもありましたし、現在の本町の財政レベルでは合併しようとする町村が納得できないので、より財政を豊かにし有利に合併を進めるべきとの強いご意見もいただいております。

この点につきましては、12月6日に3町村長が後志支庁長を交えて話し合いを行っており、合併新法内における合併を目指すことを再確認しております。ただ議会の対応に苦慮している自治体もあり、その結果を見守っているところでありますのでご理解を賜ります。

次にふるっぷ温泉につきまして、全体的な老朽化を説明し、その改善策として多額の補修予算がかかることなどを説明いたしましたが、懇談会においては健康増進の考え方を尊重し存続すべきとの意見をいただいておりますが、温泉の現状を専門家や利用者の方々の意見をふまえ結論を出して参りたいと考えております。

水道利用料金については、時間を割き説明をさせていただきました。将来各地区によって違う料金体系を統一しなければ、水道事業を実施する場合に、国の補助が受けられなくなることを説明しましたが、水道は住民生活や産業に直結することから、今後対象地域の方々と更なる方々と議論を行っていく必要があると考えております。

また、平成17年度から全面委託いたしております除雪業務について、経費節減などの結果、除雪の質が低下しているのではないかと。今後増加する高齢者が医療・介護難民化するといわれる状況の中で、喜茂別厚生医院の二階部分の活用について積極的に考えるべきではないか。という除雪業務と今後の福祉施策について、貴重なご意見をいただいたところでもあります。

これらの他に地域実情についての話し合いが行われておりますが、報告は割愛させていただきます。

なお、7会場でいただいたご意見につきましては、それぞれ貴重なものとして、早速対応させていただき、また次年度への予算化などの対応、あるいは私を含めた職員の仕事の仕方の吟味を行い、地方にとって厳しい時代の中にも、希望や安心がもてる喜茂別町に一步でも近づけるよう努力を行って参りますので、今後とも懇談会だけでなく日頃よりご意見をいただきますようお願い申し上げます、報告といたします。